

# TOP MESSAGE

## スマートエナジーパートナーとして、 FDKグループのビジョンを実現し、 社会に貢献する。

2020年2月FDK株式会社は創立70周年を迎えます。1950年にマンガン乾電池を製造する会社として創業し、その後、電池材料で培った技術を活かしてフェライト事業に進出し電子事業を拡大いたしました。一方電池事業はアルカリ乾電池、ニッケル水素電池、リチウム電池と拡大し、さらには電池と電子の技術を融合したシナジー製品として蓄電システム製品を提供してまいりました。FDKグループはこれらの先端技術と製品を通じ、一貫して「お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献」というビジョンにもとづき、提供する製品やサービスを通じて社会課題の解決に貢献する、“本業を通じたCSR”を実践してまいりました。

### FDKグループのビジョンの実現を支える 取り組み

FDKグループでは「FDKグループCSR基本方針」を制定し、その実践にあたって重点的に取り組む7つの重点課題を定めています。これらの課題への取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進します。取り組みの推進にあたっては、CSR推進委員会を設置し、FDKグループのCSR活動の基軸となる「FDK企業行動指針」および富士通グループの理念である「FUJITSU Way」の浸透、定着を図るとともに、7つの重点課題の取り組み状況の定期的なレビューを行なっています。

7つの重点課題では、環境、多様性、人材、ステークホルダー、法令遵守、ガバナンスなどに関する責任ある取り組みを進めるとともに、重点課題「様々な形で社会に貢献する電池・電子製品を供給」の取り組みを通じて、社会課題の解決に貢献する“本業を通じたCSR”を実践し、当社のビジョンの実現に努めています。

経営の基盤となるコーポレート・ガバナンスに関しては、その充実が企業の健全性、透明性の向上と株主価値の向上につながるものと考えており、コーポレートガバナンス・コードの原則を踏まえた各施策、必要に応じた経営体制・組織の見直しなどを実施しています。

また遵法を確実にし、社会的な要請に対応するため、全社横断的な組織として安全衛生委員会、リスク・コンプライアンス委員会、環境管理委員会、含有化学物質管理委員会、輸出管理委員会などを設置し、また、消費者課題については品質管理委員会、製品安全化推進委員会を設置して、適切な品質、安全性を確保するための品質保証体制の充実を図っています。さらに、よりグローバルな視点でCSRの取り組みを進めるため、国際的なCSR規範への準拠活動などを国内外の事業拠点、事業活動を構成する各社内プロセス、およびサプライチェーンに展開しています。

これらの取り組みをいっそう進め、継続的に改善し、FDKグループのビジョンの実現を確かなものにしていきたいと考えています。

### 従業員とともにビジョンの実現に向けて

FDKグループのビジョンを実現するうえで最も大切な経営資源は人材であると認識しています。FDKグループではCSR重点課題の一つに「多様性の受容」を掲げていますが、日本国内における女性管理職や外国人従業員比率は低く、多面的な発想やイノベーションの創出につながるような多様性には課題があると言えます。しかしながら、FDKグループはこれまでの事業の変遷の過程で異なる企業文化や考え方を有した人材を有しており、このような多様な人材をいっそう活かすことを含め、従業員のさらなる活躍とイノベーションの創出につながる取り組みを進めてまいります。また、FDKグループでは人材に関わるCSR重点課題として「地球と社会に貢献する人材の育成」を掲げています。階層別

研修、専門能力強化、グローバルビジネスリーダーの育成などの研修、技能習得機会を充実させるとともに、新たな施策も取り入れ、FDKグループのビジョンの実現を牽引する、グローバルに活躍できる人材の育成に注力していきます。

### バッテリーソリューションの提供を通じて、 社会や人々の安全・安心、発展に貢献

FDKグループではSMD対応小型全固体電池などの次世代電池の開発や事業化を進めています。既存の製品やサービスに加え、今後の社会の発展を支えるIoT、モビリティ、社会インフラなどの市場にこれらの次世代電池を始めとする新たな製品を提供してまいります。

FDKグループではSDGs(国連の提唱する持続可能な開発目標)のうち特に4つの目標の達成への貢献に注力することを掲げています。SDGsへの貢献のアプローチとしても重視されているアウトサイドインの視点で、社会課題の解決につながる取り組みをFDKグループならではのバッテリーソリューションの提供を通じて進めてまいります。

本レポートを通じてFDKグループの価値提供の取り組みやCSR活動についてご理解を賜われればと存じます。今後のFDKグループの取り組みのため、ステークホルダーの皆様からの忌憚ない、ご評価、ご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2019年9月

FDK株式会社  
代表取締役社長  
長野 良

